

ワークショップ『世界遺産に鎌倉を』開催

3月15日(土)、御成小学校の多目的ホールでワークショップが開かれました。

このワークショップは協議会の事業・広報の両部会が横断的に作った市民フォーラム実行委員会が、昨年11月頃に企画し準備を進めてきたものです。

鎌倉の世界遺産とまちづくりに関し、広く市民の皆さんの意見をグループ毎に探り、今後の活動に役立てよう、という趣旨で催されました。休日のさわやかな午後でしたが、65人の参加者がテーブルにつき熱心に話し合う場が実現しました。



若者の参加があつたのも収穫
(大学生のテーブル)

各グループの話し合いに入る前に、広報部会長内海恒雄さんによる世界遺産についての概要、鎌倉での取組み、提供資料類の説明がありました。また助言役を依頼した地域プランナーの伊達美徳さん、産経新聞編集委員の宮田一雄さん、鎌倉女学院の齋藤俊英校長から、討議用に参考になるお話をいただきました。

会場は年代別にシニア、ミドル、大学生、高校生等の4テーブルと、商業等の営業者、芸術文化関係、候補遺産を抱える地域周辺の住民など3テーブルの、合計7つのテーブルに分かれ、各テーブルには進行役と協議会委員、市の世界遺産担当職員がついて活発な話し合いが行われました。参加者の感想・意見を記したカードが模造紙の上にまとめられていき、その結果は進行役によって全員に報告されました。

話し合いは、初めに鎌倉の世界文化遺産登録に期待されること・懸念すること、鎌倉のまちの良い面・悪い面、というテーマについて行われ、次にそれらが将来にどう変化していく(べき)かについて第2ラウンドの話し合いが持たれました。

各テーブルの発表の中から、総合司会をしながら聞いた、印象に残った意見や感想について書いてみます。

◎ 世界遺産登録に期待されること

「緑地の破壊を防ぐことが出来る」「ミニ開発にストップをかけられるのではないか」「雑然とした市街が改善されるのではないか」「自治体に対し、学生や企業が貢

献する機会が増える」「観光客が増える」「質の良い旅行プランが可能になる」「文化財が守られる」「鎌倉のブランド性が高まる」などがありました。

◎ 世界遺産に懸念されること

「更に観光客が増えても対応できない」「外国人観光客を失望させないか」「何故玉縄城を外すのか?」「雑然とした街で申し訳ない」「観光客が増えて、観光客・商業者のクオリティが落ちる」「ゴミ問題、交通問題」「渋谷のようにならないか」「若い人が遊びづらい街にならないか」などが挙げられました。

◎ 鎌倉の「良い面」「悪い面」

「自然」「空気がおいしい」「まちを良くしようと汗をかく人が多い」「古いところ・新しいところ・文化・自然」などが挙がり、また「悪い面」は「閉鎖的」「物価が高い」「ミニ開発が多い」「車が多い」「道路が狭い」「小町通りの原宿化」「地域間に意識差がある」「商業者のモラル低下」「ブランド化」「観光客の多さ」「世界遺産にしようとする情報が伝わって来ない」「自転車走り難い」「娯楽施設が少ない」など、たくさん出てきました。

◎ 将来どのように変化していくべきか

2ラウンドに入ってから将来的な変化の話としては「良い観光客を呼び込むには良いまちにしなければ」「世界遺産に登録して何がしたいか」「統一感が出てくるのではないか」「ブランド力の向上・ただし自主規制も」などの意見が印象に残りました。

◎ 次回へのご参加をお待ちしています

冒頭の伊達さんの「世界遺産とは?」、宮田さんの「町の規模に対する観光客数分析」、齋藤校長の「教育的観点」などのお話は、参加者の皆さんに好評を博していました。

この日は、市民の世界遺産に対する率直な意見が次々に展開され、テーブル運営の難役を勤めた7名の進行役やスタッフもひとつになって熱気あふれる会になりました。今後も皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

(市民フォーラム実行委員長・福澤健次)



老若男女が集って貴重な時を過ごした